

立面計画

周辺施設との調和や地域の景観形成に寄与し、町民が親しみ誇りに思える「垂井らしさ」を表現した外観デザインとします。

■「垂井らしさ」を表現する3つの方針

① 文化会館と調和したフレームデザイン

構造補強する外付けフレームは、隣接する文化会館のフレームデザインと調和するデザインとし、景観の一体性に配慮した計画とします。



文化会館の外観

② 風景と調和したグリーンファサード

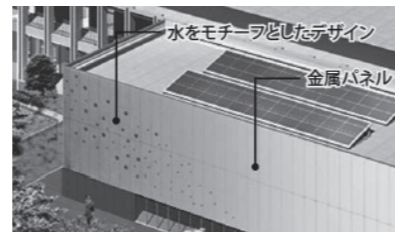
メインアプローチとなる西側外観には、外付けフレームを利用してバルコニー緑化を計画します。周辺に広がる垂井の自然と調和した緑豊かな潤いある外観を目指します。



バルコニー緑化イメージ

③ 垂井らしさを表現するホール棟の外観

国道21号からのアイストップとなるホール棟の外観デザインには、鉾山の神を祭る南宮大社にちなんだ金属パネルを使用し、町名の由来でもある水をモチーフとした外観により、垂井らしさを表現します。



ホール棟外観デザインイメージ

断面計画

■既存建物の特性を生かした断面計画

- ・既存建物のスラブを一部撤去し、吹抜けを設けることで、自然採光、自然通風を促進し明るく開放的な空間とします。
- ・既存建物の高い階高を活かし執務室は天井を張らず開放的かつコストを抑えた計画とします。
- ・増築するホール棟は既存建物と階高を合わせ、双方の移動に支障がない計画とします。

環境配慮計画

■自然エネルギーの活用

- ・4つの吹抜けと上部に設けた自然換気窓により、自然通風・換気と自然採光を促進します。
- ・荷重制約のないホール棟に太陽光パネルを設置します。

■高効率システムによる合理的なエネルギー運用

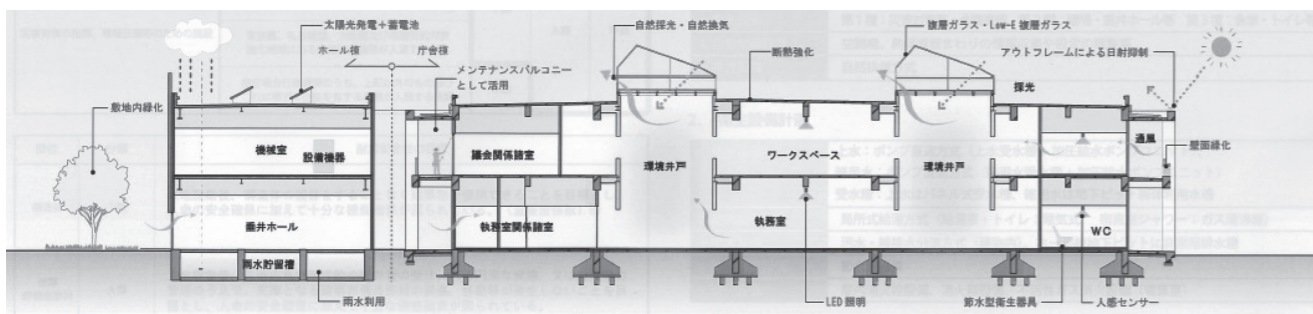
- ・全館LED照明や人感・昼光センサーにより電力消費量の低減を図ります。
- ・個別空調システムの採用により、必要エリアごとの空調管理を実施します。

■熱負荷の抑制

- ・外付けフレームによる日射抑制、断熱の追加・新設や複層ガラスの採用により高断熱・高气密化を図ります。

■環境負荷抑制

- ・壁面（バルコニー）緑化や地上部緑化による蒸散効果を促進します。
- ・保水性舗装などの採用による、ヒートアイランドの抑制を図ります。



防災計画

■庁舎機能について

- ・災害時にも庁舎機能を継続できる庁舎とします。
- ・災害時には町の災害対策本部として迅速かつ的確な意思決定ができるように、町長室や副町長室に近接した位置に災害対策本部を設けます。平常時は会議室として利用します。

■耐震性能の確保

- ・サーバーは、機器側で免震下地を設けることにより、情報ネットワークの維持を図る計画とします。
- ・地震時の天井材や照明器具の落下防止策を十分に行います。

■浸水対策について

- ・非常用発電設備などの重要機器は、想定を超える万が一の浸水に備えて2階に配置します。
- ・ゲリラ豪雨などに対応し、雨水排水は降雨強度においても適切に外部に排水できる計画とします。

■ライフラインの確保・災害に対応した広場計画

- ・非常時電源用の自家発電設備を設け、災害発生後72時間の施設稼働に対応できる計画とします。
- ・西側駐車場は災害時の支援物資の受入・搬入スペースとして多様な利用が可能な計画とします。

その他

基本設計の詳細については、町ホームページに公開していますのでご覧ください。なお、建物イメージおよび詳細内容は、実施設計の中で、変更する可能性があります。

平成31年度の供用開始に向けて、スピード感を持って取り組んでいきます。
問合せ／総務課 管財係（内線296、294）

新庁舎の基本設計がまとまりました

～「笑顔でつなぐ新庁舎」～

基本方針

1. 町民が集う庁舎
2. 町民の安全を守る庁舎
3. すべての人にやさしい庁舎
4. 町民が誇り、愛される庁舎



新庁舎西側外観イメージパース

設計コンセプト

まちづくりの核として垂井の未来をカタチづくる『シンボル庁舎』

コンバージョン（建築再生）という手法を用いて既存商業施設に新しい命を吹き込み、周辺施設・環境と調和した新庁舎の実現を目指します。

配置計画

■明快な配置計画

- ・西側を来庁者用駐車場・メインアプローチ、東側を職員など関係者スペースとし、来庁者と職員関係者の配置を明快に分離します。

■混雑に配慮した動線計画

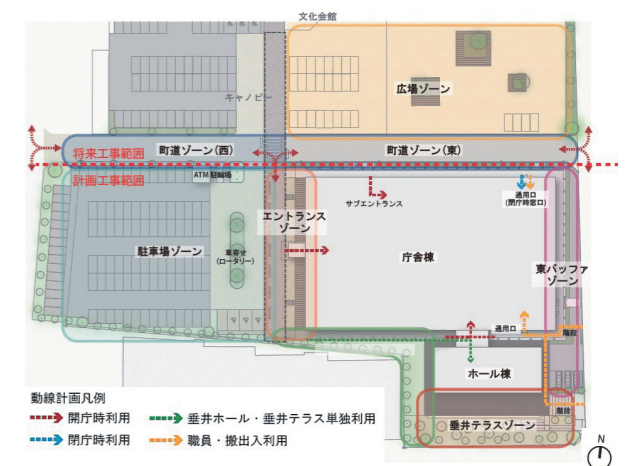
- ・西側道路の渋滞に配慮し、北側町道からのアプローチとします。

■緑豊かな屋外空間の創出

- ・近隣の建物および車の音や視線に配慮し、適所に緑地帯などを設け、落ち着きある屋外空間を創出します。

■将来の拡張性を考慮した計画

- ・町の新たな文化・公共施設の中心エリアとすべく、文化会館との将来的な連携など、新庁舎の拡張性を考慮した計画とします。



平面計画

■誰もがわかりやすく利用しやすい平面計画

- ・エントランスホールは十分な広さを確保し、庁舎内を見渡すことができ、視認性が高く窓口の位置がわかりやすい計画とします。

■将来の変化に柔軟に対応できる快適な執務スペース

- ・執務室は壁が少ないオープンな空間を基本とし、十分なスペースを確保するとともに、フリーアクセスフロアとすることで、将来の組織改編などにも柔軟に対応できる計画とします。

■フレキシブルな運営に対応した配置計画

- ・利用時間の変更や休日開放などにも適宜対応できるように、執務エリアと町民エリアがセキュリティラインにより明確に分離できる計画とします。

■町民が利用しやすい動線計画・フロア構成

- ・町民利用の多い窓口部門を優先的に1階に配置し、2階には総務などのスタッフ部門や議会などを配置することで、町民利用と執務室を明快に分けたフロア構成とします。

■自然エネルギーを利用した快適で合理的な平面計画

- ・町民エリアと執務エリアそれぞれに2箇所の吹抜けを設け、自然採光を確保した計画とします。採光や通風を活かし、極力設備に頼らない平面計画とします。

